

# - 災害から文化遺産と地域をまもる対策のあり方 - (骨子案)

## 第1章 目的と背景

1. 文化遺産をまもる必要性
2. 近い将来の大規模地震への早期対応
3. 文化遺産所有者、地域住民、行政の連携の重要性
4. 文化遺産と地域をまもる効果

## 第2章 災害から文化遺産と地域をまもるための基本的な考え方

### 1. 対象とする災害、文化遺産と地域

- (1) 対象とする災害
- (2) 対象とする文化遺産
- (3) 対象とする地域

### 2. 主体毎の取り組みについて

- (1) 文化遺産所有者・管理者の取り組み
  - ・ 消火設備の整備
  - ・ 文化遺産建造物の倒壊防止
  - ・ 美術工芸品等の転倒・転落防止・搬出活動
- (2) 地域住民の取り組み
  - ・ 自主防災組織、コミュニティ形成等による防災力向上
  - ・ 初期消火の対応
  - ・ 文化遺産の救援活動
  - ・ 建物の耐震化・不燃化
- (3) 行政の取り組み
  - ・ 防災意識の普及・啓発
  - ・ 文化遺産所有者・管理者への防災指導
  - ・ 自主防災組織の活動の支援・指導
  - ・ 地域防災計画等への反映

### 3. 文化遺産所有者・管理者、地域住民、行政の連携について

- (1) 防災まちづくりとしての地域での取り組み
- (2) 個々の役割分担の明確化と取り組み
- (3) 自主防災組織の活性化
- (4) 各主体が連携した訓練による防災力の向上

## 第3章 災害から文化遺産と地域をまもる計画の考え方

### 1. 計画策定の方針

- (1) 防災計画上の位置づけ
- (2) 地域特性の把握
- (3) 文化遺産所有者・管理者、地域住民、行政の役割分担
- (4) 短期的対策、中長期的対策の考え方
- (6) 災害時の活動内容の方針の考え方
- (7) 計画策定のための体制の構築

### 2. 計画策定の方法、留意点

- (1) 対象とする文化遺産と地域の決定
- (2) 現地調査による地域特性の把握(文化遺産、消防水利等地域の現状調査)
- (3) ソフト・ハード対策の検討(延焼シミュレーションの実施等)
- (4) 事業の具体化に向けた検討・整理

## 第4章 具体的な手法

### 1. ハード手法

- (1) 文化遺産そのものをまもる手法
  - ・ 建造物の倒壊防止
  - ・ 美術工芸品の転倒・転落防止
  - ・ 各種消火設備の設置
- (2) まちと文化遺産を一体としてまもる手法
  - ・ 延焼を減らすための周辺の街路樹整備、公園・空地整備
  - ・ 消防や地域による消火活動のための施設の整備
  - ・ 火災延焼防止設備の整備
- (3) 地域ぐるみの取り組みとしてまちと文化遺産をまもる手法
  - ・ 文化遺産の保管場所の確保

### 2. ソフト手法

- (1) 文化遺産そのものをまもる手法
  - ・ 自主防災の取り組み
  - ・ 文化遺産の搬出活動
- (2) まちと文化遺産を一体としてまもる手法
  - ・ 伝統建築物に関する地域における建築基準の規制緩和
- (3) 地域ぐるみの取り組みとしてまちと文化遺産をまもる手法
  - ・ 消防や地域住民等による消火活動・訓練
  - ・ 延焼の迫った文化遺産の移動・保管
  - ・ 地震等により倒壊した文化遺産の保管

## 第5章 実現に向けた課題等について

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 文化遺産を核とした地域連携の強化 | 消防水利の水源確保             |
| 文化遺産救援活動への市民参加   | 地震火災以外の災害に対する対応       |
| 消防水利設備の耐震化等      | 地域の文化遺産の登録等           |
| 都市構造の改変          | 文化遺産の防災に関する研究・技術開発の推進 |